

## 構造改革特別区域計画

### 1 構造改革特別区域計画の作成主体の名称

沼津市

### 2 構造改革特別区域の名称

沼津市言語教育特区

### 3 構造改革特別区域の範囲

沼津市の全域

### 4 構造改革特別区域の特性

沼津市は平成13年に第3次総合計画を策定し、「人が輝き、まちが躍動する交流拠点都市 沼津」の実現を目指した施策を展開している。中でも、「次代を担う人づくり」を市政の中心に据え、将来の沼津市を支える子どもたちを育成する魅力ある「人づくり」を推進している。

学校教育においては、平成12年度から「ちえづくり・ひとづくり・ぬまづの教育21」事業を始めた。これは、市立小中学校41校（当時、現在44校）がそれぞれの地域性を考慮した特色ある教育を展開する中で、児童生徒の生きる力と知恵を育み、感性豊かな「ひとづくり」の教育を推進しようとしたものである。具体的には「自然を大切に作る心」「ものを大切に作る心」「いのちを大切に作る心」など、「育てたい21の心」の中から各学校が自校のテーマを選び、環境・福祉・人権などをサブテーマに、施設訪問や多世代の交流、自然探索や勤労生産体験、ボランティア体験などを行ってきた。

平成15年4月、市立沼津高等学校に併設型の中等部を新設し、中高一貫教育を開始した。また、平成17年4月には通学区域の弾力化として「隣接校選択制」を導入した。さらに、「ちえづくり・ひとづくり・ぬまづの教育21」事業の後継として、各小中学校が地域と連携し特色ある学校運営を進めていくため、平成17年度から「人づくり未来塾推進事業」を始めた。これは各学校が独自に事業を立案し予算立てするもので、各学校の裁量権限が拡大された。

沼津市の地域的特色としては、比較的首都圏に近く、新幹線や東名高速道路といった主要交通網を利用した人の往来が盛んであることがあげられる。また、富士箱根伊豆国立公園の玄関口として、外国人観光客の来訪も多い市である。平成19年11月には、第39回技能五輪国際大会の開催が控えている。

また、沼津市は、井上靖、芹澤光治良、若山牧水、大岡信など、多くの文人ゆかりの地でもある。市内各所に記念館や記念碑等があり、文学の薫り高い市でもある。

## 5 構造改革特別区域計画の意義

近年、子どもたちの日常会話の貧弱さ、対人的言語能力の低下、家庭内での会話の不足等、児童・生徒の言語環境が悪化していることが指摘されている。少子化の中で、子ども同士や異年齢・異世代との関わりが希薄化し、相手の表情や気持ちを汲むことなく自己の要求・欲求を優先する傾向が見られ、言葉で伝えることが上手にできず、感情の発露がコントロールできなくなり、いきなり「切れる」少年犯罪の増加も問題となっている。沼津市でも、意思の疎通に欠く対人関係の不安定さを抱えている児童生徒への指導が教育課題の一つとしてあげられている。

平成15年7月に実施されたOECD学習到達度調査（PIISA調査）では、日本の子どもたちの論理的思考力を含む読解力（いわゆるPIISA型読解力）の低下が明らかになった。このPIISA型読解力は、文章や資料を理解し、それを評価したり利用したりして自分の考えを加えながら表現する能力で、日本の15歳の読解力分野の順位は40カ国中14位（平成12年は8位）であった。また、平成15年度の教育課程実施状況調査においても、資料を使って自分の意見を記述する問題や、自分の考えを付け足しながら記述する問題などに課題が残った。子どもたちには、言語を駆使して積極的に物事とかかわっていかこうとする姿勢に欠けてきている傾向があることが読み取れる。

沼津市においては、平成17年9月に市内の小学校5年生と中学校3年生全員を対象として「学習到達度調査」と「学習意識調査」を実施し、沼津市の児童生徒の学習の実態を調査した。その結果、コミュニケーション能力に関わる設問に対し、小学校5年生が全国平均を下回っており、中学校3年生も低い数字であることがわかった。

一方、沼津市の外国人登録者数は平成12年8月末には2,622人であったが、平成17年同期には4,204人と、5年間で160%以上も増えている。小中学校に在籍する外国人児童生徒数も年々増加しており、国際化に対応できる人材の育成は急務である。また、平成19年11月に技能五輪国際大会の開催が控えており、開催市として様々な国の人との会話に有効な英会話能力を身につけた市民の育成が急がれている。

沼津市では、外国人ボランティアを派遣する「わたしたち小さくても大きな国際人事業」(平成14年度～16年度)や、小学校3年生以上の全てのクラスにALTを派遣する「小学校英語活動推進事業」(平成16年度～)など、小学校での英語活動を推進してきた。さらに、平成17年度から始めた「人づくり未来塾推進事業」を活用し、独自の英語活動を推進する小学校も増えてきた。

現在、小学校での英語活動は、総合的な学習の時間に位置づけて実施している。しかし、総合的な学習の時間での英語活動は、国際理解教育として外国の生活や文化に慣れ親しむことを目的として取り組んでいるため、系統的に「英語」を積み重ねてい

くことが難しい。

このような状況から、沼津市では言語教育の充実が重要な教育課題であると考えた。そこで、構造改革特別区域の特例措置を活用し、「読解の時間」と「英語の時間」からなる独自の「言語科」を設定し、小中一貫した言語教育を実施することで児童生徒の言語能力の向上を図っていきたい。

## 6 構造改革特別区域計画の目標

沼津市は、「夢を持つ子、夢に挑戦する子、存在感を感じることができる子」「世界に羽ばたく沼津の子」の育成を目指しており、言語教育の充実は、これを支える基盤となる。

言語教育について、学習指導要領総則には「学校生活全体を通して、言語に対する関心や理解を深め、言語環境を整え、生徒の言語活動が適正に行われるようにすること」とある。また、国語科においては「国語に対する関心（認識）を深め国語を尊重する態度を育てる」とともに「豊かな言語感覚を養い、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成すること」に重点が置かれている。

文部科学省はPISA調査を踏まえた読解力向上に関し、「指導の改善に当たっては、学習指導要領のねらいとするところを一層徹底することが重要」とし、改善の具体的な方向として「教科国語を中心としつつ、各教科、総合的な学習の時間等を通じて」取組を行うとしている。

そこで本市においては「言語科」に「読解の時間」を設け、国語科では扱っていなかった、表、図、地図、グラフなどの様々なテキストを解釈、熟考・評価し、自分の考えを加えて自由に表現する力の育成に重点的に取り組むことにより、各教科における読解力の向上の基礎作りや、各教科の取組をつなぐ働きを持たせたい。

「英語の時間」に関しては、小中一貫カリキュラムのもと、中学校卒業時の英語力を確かなものにすることを目標とする。これからますますグローバル化する社会で、義務教育終了段階で基礎的英語力を確実に身につけておくことは、子どもたちの将来の選択の幅を広げることに繋がっていく。特に「英語の時間」においては、学習指導要領にある「実践的コミュニケーションの育成」を重点に置く。

小学校への英語教育の導入は、新たな言語習得のため、児童の知識の量に個人差がないことから、どの子にも満足感や成就感を味わわせることが容易で、コミュニケーションに対する自信をつけていくことができる。1年生から繰り返し基本的な英語に触れ、学習内容をスパイラルに構成することで、中学での英語学習へスムーズに接続するよう留意する。

中学校における「英語の時間」は、「従来、生徒たちは一定の基本的な知識を身につけていたとしても、それを活用できなかったのは、積極的に自分の考えを相手に伝えようとしたり、相手の考えを理解しようとしたりするなどのコミュニケーションを図

ろうとする態度の育成が十分でなかった」(学習指導要領解説)との指摘を考慮し、英語を使う必然性のある場面を設定したカリキュラムを作成していく。

また、ネイティブスピーカーのALTを配置することで、「英語の時間」の授業そのものが異文化に触れる体験となり、国際理解を深める上でも効果がある。異文化理解が深まることは、振り返って自国の文化を見直すことになり、児童・生徒の日本文化に対する関心も高まることが期待される。

このように「言語科」を実施することにより、子供たちが思いやりの心を持って積極的に人と関わり、グローバルな視野を持ちながら自分たちのくらしを見つめ直していく態度が育成されていくと考えられる。これは、県東部の中核市として地域の活性化に重要な責務を担っている沼津市にとって、「人づくり」の重要な取組となる。本市が掲げる「人が輝き、まちが躍動する交流拠点都市」構想実現のためにも、構造改革特別区域による特例を適用して独自の「言語科」を設置し、言語教育を充実させていきたい。

#### 7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

言語能力の育成を重視した学習は、意思の疎通を欠く対人関係の不安定さからくる今の子どもたちが抱える様々な問題の解決にもつながるものである。良好な人間関係を構築する能力を向上させる活動や外国人と触れ合う活動を通して、広い視野や柔軟な考え方が身に付き、児童・生徒の学校内での人間関係のあり方を変える。

また、小学校から英語教育を取り入れることは、外国語や異文化への興味関心を高め、国際感覚を養うとともに、中学校英語へスムーズに接続することができ、中学校入学時への不安が解消する。外国の文化を理解し尊重する態度、及び能力の育成を目指すことから、言葉や文化の壁を越えて共に生活していくことができる力を養い、国際的な活動に積極的に参画できる資質を持った人材を育成していくことができる。

さらに小・中学校で英語を重点的に学習することで、市民の英語に対する興味・関心も高まり、英語が話せる市民の増加が期待できる。その結果、国際交流事業の推進に伴う産業・経済面での活性化、人的交流の増大による効果、地元企業に貢献できる人材の育成など、経済的・社会的活性化につながる。

また、言語教育を中心とした魅力ある学校づくりが進むことで、若年層の定住を促進させ、市外からの転入者の増加も期待できる。このことで市や地域が活性化され、経済的・社会的な効果が生じる。市内及び近隣の市町に在住の外国人をALTとして採用することによる雇用増大の効果も期待できる。

#### 8 特定事業の名称

構造改革特別区域研究開発学校設置事業(802)

9 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

( 1 ) 言語教育推進委員会等の設置

学識経験者や有識者、学校関係者等による「言語教育推進委員会」を設け、沼津市独自の言語教育を推進するための方向付け、言語教育副読本の作成にあたる。また、国語教育推進部会と英語教育推進部会では、カリキュラムの作成・見直しや、教材の開発などを進めていく。

( 2 ) 副読本の作成

「言語科」については基本的に教科書を使用しない。教材は言語教育推進委員会を中心に、拠点推進校等で蓄積したものを参考にして、読解と英語を合わせた沼津市独自の「言語科副読本」を作成する。

( 3 ) 拠点推進校の設定

言語教育は全市で実施していくが、特に教科の研究を推進していくために、市内2中学校区を拠点推進校区として設定し、カリキュラムや評価規準の作成について先進的に取り組んでいく。

他の小中学校は、拠点推進校での公開授業や研修会に参加し、自校の取組の参考とするとともに、拠点推進校と双方向で情報交換し、教材等を蓄積していく。

( 4 ) 教員研修の実施

「読解力」の向上に関しては、拠点推進校での公開授業を中心に授業研修を進めていく。

小学校への英語教育の導入には授業を行う教員の研修が重要であるため、拠点推進校での定期研修に各学校のリーダー教員も参加し、各校の研修に生かす。また、全小学校において長期休業中に英語指導力向上集中研修を実施し、年間計画や指導案の作り方、校内研修の進め方、英語のブラッシュアップ等を行う。

## 別紙

### 1 特定事業の名称

802 構造改革特別区域研究開発学校設置事業

### 2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

沼津市立沼津高等学校中等部を除く沼津市内の全市立小中学校

### 3 当該規制の特例措置の適用の開始日

平成18年4月1日

### 4 特定事業の内容

#### (1) 事業に関与する主体

沼津市

#### (2) 事業が行われる区域

沼津市の全域

#### (3) 事業の実施期間

平成18年4月から実施

#### (4) 事業により実現される行為

沼津市独自の言語教育を推進するために、小中学校に「言語科」を新設する。沼津市立沼津高等学校中等部については、独自の中高一貫カリキュラムを実施しているので本特例は適用しないが、可能な範囲で同様の取組を行う。

### 5 当該規則の特例措置の内容

#### (1) 「言語科」について

##### 「言語科」新設の理由

近年、子どもたちの使う言葉の乱れや、子どもたち同士の間関係の希薄化が指摘されている。学校においては、相手の意見や感情を理解しようとせず、自己の要求や欲求を優先する傾向が見られ、言葉で自分の気持ちを上手に伝えられない子どもたちが増えてきている。中学校で深刻であった校内暴力が、最近では小学校で増加していることが報告されているが、原因の一つに、コミュニケーションが成立していない状況があげられている。人の話をしっかり聞くことができ、自分の気持ちをしっかり伝えることができる力、すなわち言葉を理解し言葉で表現する力の育成が、

今、多くの学校の教育課題となっている。

これを裏付けるように、平成15年7月に実施されたOECD学習到達度調査(PISA調査)や、国立教育政策研究所が実施した平成13・15年度の教育課程実施状況調査では、テキストを解釈、熟考・評価することや、相手や目的などに応じ自分の考えや根拠を明確にしながら自分の考え方を述べる力などに課題があることが明らかになった。特にPISA調査の「読解力」は言葉の応用力が求められており、この低下は、子どもたちの実生活における言語能力の低下との相関関係が大きいと考えられる。また、これらの調査での無回答率を懸念する声も上がっているが、これは、困難なことに直面した時、簡単にあきらめてしまう傾向がある現代の子どもたちの姿と重なる。

一方、国際化が急速に進展する中で、世界で広く使用されている英語の習得が重要な課題となっている。特に英語による実践的コミュニケーション能力の育成は、子どもたちの将来の選択の幅を広げるものであり、義務教育段階で基礎的な英語力を確実に身につけておくことが求められている。

しかし、平成15年度の教育課程実施状況調査によると、英語の授業が「分からないことが多い」「ほとんど分からない」と回答する生徒の割合が他教科より高い傾向にあり、中学3年生では28.3%にも及んだ。また、相手の言葉の意図をとらえて適切に応答する力や、いくつかの情報を整理し、全体の流れの中でその意味を適切に読み取る力に課題があることがわかった。

このような言語教育の諸課題について、平成17年10月に出版された中央教育審議会答申においても、「国語力はすべての教科の基本となるものであり、その充実を図ることが重要である」と指摘するとともに、「小学校段階における英語教育を充実する必要がある」として、言語教育推進の重要性について言及している。

沼津市は、これら言語教育の課題に対して、独自の「言語科」を新設し、日本語や英語を用いて、相手と好ましい人間関係を自ら築こうとする意欲と、そのために必要な資質や能力の育成を目指す「読解の時間」と「英語の時間」を設定することで、「言葉を用いて人と積極的に関わっていこうとする態度の育成」を図っていこうと考えた。

#### 「読解の時間」の設定

PISA調査で課題とされた「読解力」は、従来、国語科で行ってきた「連続型テキスト」と呼ばれる物語や、解説、記録などの文章の読み取りにとどまらず、表、図、地図、グラフなど「非連続型テキスト」と呼ばれる様々なテキストを解釈、熟考・評価し、自分の考えを加えて自由に表現する力を言う。PISA調査は、その力が実生活の様々な場面で直面する課題において、どの程度活用できるかを評価している。自ら課題を考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとする力が

求められているのだが、これは「生きる力」を知の側面からとらえた「確かな学力」として学習指導要領において求めているものと通じる。

文部科学省は、この「読解力」の向上について「国語だけでなく、各教科、総合的な学習の時間など学校の教育活動全体で身につけていくべきものであり、教科等の枠を超えた共通理解と取組の推進が必要」としている。そして「目的に応じて理解し、解釈する力の育成」や「評価しながら読む力育成」など、7つのねらいを提示している。

沼津市においても、この新しい考え方である「読解力」を向上させることは、現代の子どもたちの言葉に関わる諸課題に対して、非常に有効であると考えた。

しかし、この「読解力」向上は今日の学校教育において重要なテーマであるが、その取組の必要性がまだ十分に浸透しているとは言い難い。様々な課題が山積している現在の学校で、各教科の枠を超えて共通理解を持って授業改善を進めるためには、国語科の授業として扱うだけでなく、「読解力」向上を特化した教育課程が必要である。

「読解の時間」において、「読解力」の向上を焦点化した授業を実施し、学習者にその重要性や自らの課題、これから身につける力を文部科学省の示す7つのねらいをもとにして明らかにするとともに、各教科と関連を図りながら教育活動全体で「読解力」を向上させていく。これは、「学校の教育活動全体を通じて道徳性を養うとともに、道徳の時間において補充、深化、統合し、道徳的实践力を育成する」としている道徳教育の考え方と通じる。したがって、「読解の時間」の指導は小学校においては学級担任が行うが、中学校においても当初は国語科教師が担当しながら、国語科以外の教師もこの授業が指導できるよう研修していく。

「読解の時間」は、テキストを評価・熟考し、自分なりの考えで表現する力の育成まで含む。伝えようとする相手のことを理解しようとしたり、自分の考えを相手に伝えるための表現方法を工夫したりする一連の学習活動は、「言語科」のねらいである「言葉を用いて人と積極的に関わっていこうとする態度の育成」につながる。また、自分の考えたことを積極的に相手に伝えようとするコミュニケーション能力の育成は、「英語の時間」の学習と関係が深いことから、相互に関連させながら実施していく。

#### 「英語の時間」の設定

「英語の時間」では、「中学校卒業時の生徒の英語力を確かなものにする」という目標を据え、9年間の小中一貫カリキュラムのもと、英語を使って自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを理解したりするための基礎的な英語力をじっくりと育成していこうと考えた。

現在、沼津市の小学校では、3年生以上の全てのクラスで総合的な学習の時間に

「英語活動」を実施しているが、国際理解教育の一環としての取組であり、系統的に英語学習を行うには至っていない。義務教育を終える中学3年生の英語力を確かなものにするためには、小学校段階から一貫したカリキュラムのもと、繰り返し英語に触れていくことが必要である。また、外国人に対しても物怖じせず、しっかりと向き合おうとする姿勢を育成するためには、小学校低学年からネイティブスピーカーと英語を通じてふれ合う経験を重ねていくことが大事である。「英語の時間」で外国人のALTと接し、異文化理解を深めていくことは、振り返って日本文化に対する思いを新たにすることでもある。

さらに、既習の英語を用いて一生懸命自分のことを伝えようとする学習活動は、「言語科」のねらいである「言葉を用いて人と積極的に関わっていこうとする態度の育成」につながる。「英語の時間」の実施は、外国語習得や異文化理解にとどまらず、言語教育推進の大きな力になっていくと考えられる。

小中一貫英語カリキュラムでは、小学校での英語の基本を「楽しく英語に触れ、英語の特徴に慣れ、簡単なコミュニケーションの仕方を身につける。」こととする。小学校英語は、中学校で本格的に英語を学ぶための下地作りと考え、小中学校を通して、繰り返しスパイラルに学ぶことにより、中学卒業時に学習指導要領の中学校英語の内容を完全に理解する生徒が増えることを目指す。たとえば4月の「あいさつをしよう」という場面を各学年共通して設定し、扱う語彙と文法レベルを上げながら繰り返し学習し、中学校での英語の学習を充実させていく。

#### 教育課程上の位置付け

小学校1、2年の生活科の授業時数を削減し「言語科」を設置することについて、生活科のねらいの一つである「自分が気づいたことなどを言葉、絵、動作、劇化などで表現すること」が、「言語科」の「読解の時間」の実施により達成でき、その他のねらいについても指導時期や指導方法の工夫により、時間数削減後もその趣旨は達成できると考えている。

総合的な学習の時間は「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」の育成をねらいとしている。また、「読解の時間」は、テキストを評価・熟考し、その課題を主体的に判断し、よりよく課題を解決しようとする力の向上を目指しているため、総合的な学習の時間のねらいと合致している。したがって総合的な学習の時間の削減後も、その趣旨は「言語科」に生かされると考えている。

また、「言語科」の実施により、自分の思いを自分の言葉でしっかりと伝えることができたり、人の気持ちを尊重し人の気持ちを思いやることができたりするコミュニケーション能力の向上が期待される。これは国語科の「伝えあう力」や英語科の「実践的コミュニケーション能力」に通じるものである。さらにPISA型読解力

の育成は、「生きる力」を知の側面からとらえた「確かな学力」の育成につながるため、「言語科」の実施は学習指導要領に準拠していると考えている。

以上のことから、本市の目指す言語教育の推進は、教育基本法あるいは学校教育法の示す教育目標から逸脱することはない。

#### 転入生への支援

沼津市外から本市への転入生の「言語科」未習部分に関しては、各学校が放課後や長期休業等を利用して個別指導を行うとともに、希望する転入生に対して、英語指導員（教育学部の大学生等）や、読解力向上支援員などが補習を行う。

### （２）取組の期間等

平成 18 年度は 2 つの中学校区（小学校 4 校、中学校 2 校）を拠点推進校として指定し本事業を実施する。拠点推進校以外でも実施可能な学校においては、本事業の一部あるいは全部を実施する。

平成 19 年度には全小中学校において本事業の全てを実施し、次の学習指導要領の内容も考慮して、平成 22 年度に本事業の見直しを行う。

その間、「沼津市言語教育推進委員会」で全市の進捗状況を検討しながら、国語教育推進部会と英語教育推進部会において、「言語科」に使用する副読本を開発し、市内小・中学校の言語教育の標準化を図る。

### （３）教育課程の基準によらない部分

#### 小学校 1～2 年生

生活科の授業時間を 25 時間削減し、当該時間と予備時数（余剰時間）10 時間を合わせて 35 時間の「言語科」を設置する。そのうち 15 時間程度を「読解の時間」、20 時間程度を「英語の時間」とする。

#### 小学校 3～6 年生

総合的な学習の時間を 55 時間削減し、当該時間を「言語科」として設置し、20 時間程度を「読解の時間」、35 時間程度を「英語の時間」とする。

#### 中学校

選択教科と総合的な学習の時間を 70 時間削減し、当該時間を「言語科」として設置し、35 時間ずつ「読解の時間」、「英語の時間」とする。

### （４）計画初年度の教育課程の内容等

#### 「言語科」の目標

言葉を用いて積極的に人と関わっていかこうとする態度の育成

・子どもたちが様々な人たちと共に生活していく中で、相手を尊重し、相手の伝え

ようにすることや気持ちを正確に受け取り、その言動の意味を考え、それに対する自分の意見や気持ちを自分の言葉で的確に伝える能力を育成する。

- ・情報を正しく読み取り、その情報の価値を判断し、目的や状況に応じて自分に必要な情報を選択することのできる能力を育成する。
- ・グローバル化する社会の中で、外国の人と接するときも、物怖じせず、しっかり向き合おうとする姿勢と、実践的コミュニケーション能力を育成する。

#### 「言語科」の内容

「言語科」では、積極的に人と関わっていかこうとする態度の育成を図るために、情報（テキスト）を正確に受け取り、自分の言葉で表現する能力を育成する「読解の時間」と国際的共通語となっている英語を使って相手とコミュニケーションしようとする能力を育成する「英語の時間」を設定する。

##### ア 「読解の時間」

- ・テキスト（文章や表やグラフ等）を理解し、評価しながら読む力を高める。
- ・テキストに基づいて自分なりの考えを書く力を高める。
- ・読書活動を充実し、言語についての知識を深めるための基礎力を育成する。

##### イ 「英語の時間」

- ・小中一貫カリキュラムのもと、中学校卒業時の英語力を確かなものにする。
- ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ・異文化への理解を深め、それを通して日本についての理解を深める。

#### 評価の観点

##### 積極的に他者と関わろうとする態度

- ・自分の思いを言葉にし、他者の意見や感情を理解し、積極的に他と関わろうとする。

##### 読解力

- ・読み取ったこと、わかったことを自分なりの考えで評価し、自分の思いを加えて表現しようとする。

##### 英語によるコミュニケーション能力

- ・英語を聞いたり話したりすることに親しみ、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。

以上の観点を基に学年別評価規準を作成し、評価項目を整理する。評価は文章による評価を原則とし、児童生徒・保護者に対し、授業の目標や内容、個々の取組状況等がわかるよう工夫する。

#### 「言語科」の実施形態

#### ア「読解の時間」

- ・小学校では学級担任が行う。
- ・中学校では当初は国語科教師が担当するが、学校教育全体への浸透を図るために、国語科以外の教員も担当できるよう研修していく。
- ・全小中学校に配置する読解力向上支援員とのＴＴ（チームティーチング）による授業も検討していく。

#### イ「英語の時間」

- ・小学校では原則として学級担任とＡＬＴがＴＴで行う。
- ・中学校では、英語科教師とＡＬＴがＴＴで行う。

### 研修計画

#### ア 拠点推進校

- ・拠点推進校は計画的に「言語科」の授業を公開し、自校及び他校の教員の資質向上を図る。
- ・小学校では、月に２～３回の英語運用力研修と、学期に１度の授業研修、及び夏季休業中に集中研修を実施する。

#### イ 拠点推進校以外の学校

- ・平成１９年度の全小中学校完全実施に向け、校内研修等の充実を図る。
- ・小学校では、拠点推進校での授業研修に各学校の代表が参加し、また、夏季休業中に集中研修を実施する。
- ・中学校英語教員対象の英語指導力向上研修を夏季休業中に実施する。

### 教材

- ・「言語科」の授業は教科書を使用せず、指導計画に基づき指導を行い、独自の教材を開発していく。
- ・拠点推進校の授業実践を基に教材を精選し、平成２０年を目途に沼津市独自の言語科副読本を作成していく。

### カリキュラム上の学年区分

| 導入初年度     | ２年目以降        |
|-----------|--------------|
| ・小学校１年～２年 | ・小学校１年～２年    |
| ・小学校３年～６年 | ・小学校３年～４年    |
|           | ・小学校５年～中学校１年 |
| ・中学校１年～３年 | ・中学校２年～３年    |

小学校への英語教育導入をスムーズにするため、導入初年度は小学校を２つの大きな学年区分とする。

授業時数

【特区による小学校の授業時数】

|      | 国語  | 社会  | 算数  | 理科 | 生活 | 音楽 | 図工 | 家庭 | 体育 | 言語<br>読解 英語 | 道徳 | 特活 | 学総<br>習合<br>的時<br>間の<br>時間 | 合<br>計 |
|------|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|-------------|----|----|----------------------------|--------|
| 第1学年 | 272 |     | 114 |    | 77 | 68 | 68 |    | 90 | 35<br>15 20 | 34 | 34 |                            | 792    |
| 第2学年 | 280 |     | 155 |    | 80 | 70 | 70 |    | 90 | 35<br>15 20 | 35 | 35 |                            | 850    |
| 第3学年 | 235 | 70  | 150 | 70 |    | 60 | 60 |    | 90 | 55<br>20 35 | 35 | 35 | 50                         | 910    |
| 第4学年 | 235 | 85  | 150 | 90 |    | 60 | 60 |    | 90 | 55<br>20 35 | 35 | 35 | 50                         | 945    |
| 第5学年 | 180 | 90  | 150 | 95 |    | 50 | 50 | 60 | 90 | 55<br>20 35 | 35 | 35 | 55                         | 945    |
| 第6学年 | 175 | 100 | 150 | 95 |    | 50 | 50 | 55 | 90 | 55<br>20 35 | 35 | 35 | 55                         | 945    |

1、2年は、総時間の10時間増を、予備時数から充当する。

【特区による中学校の授業時数】

|      | 国語  | 社会  | 数学  | 理科  | 音楽 | 美術 | 保健<br>体育 | 技術・<br>家庭 | 外国<br>語 | 言語<br>読解 英語 | 道徳 | 特活 | 選<br>択 | 学総<br>習合<br>的時<br>間の<br>時間 | 合<br>計 |
|------|-----|-----|-----|-----|----|----|----------|-----------|---------|-------------|----|----|--------|----------------------------|--------|
| 第1学年 | 140 | 105 | 105 | 105 | 45 | 45 | 90       | 70        | 105     | 70<br>35 35 | 35 | 35 | 0~30   | 0~30                       | 980    |
| 第2学年 | 105 | 105 | 105 | 105 | 35 | 35 | 90       | 70        | 105     | 70<br>35 35 | 35 | 35 | 35~50  | 35~50                      | 980    |
| 第3学年 | 105 | 85  | 105 | 80  | 35 | 35 | 90       | 35        | 105     | 70<br>35 35 | 35 | 35 | 70~130 | 35~95                      | 980    |

各学年別「言語科」年間指導計画概要 【導入初年度用】

小学校1、2年

| 学習目標  |                 |                |
|---|-----------------|----------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書を通し、空想を広げたり考えたりする。</li> <li>・日常生活や体験的な学習の中で感じ取ったり考えたりしたことを、内容や方法を整理して、自分なりの工夫を加えて話したり書いたりする。</li> <li>・友達や教師・ALTと英語で触れ合う。</li> </ul>  |                 |                |
| 「読解の時間」活動例  | 「英語の時間」場面設定     |                |
| <p>地域の方に、沼津の昔話を語ってもらおう。それを友達同士で語り合ったり、今の話に書き換えたりする。また、家に帰って伝え、知っている家族を調べる。(2年生が1年生に読み聞かせる活動にも応用。)</p> <p>「うさぎとかめ」の歌詞を、うさぎチームとかめチームに分かれ、歌詞に込められたそれぞれの気持ちを考え、言い方を工夫しながら読み合う。</p> <p>学級日誌をクラス全員で書き、内容の違いについて話し合い、自分の日誌を家族に見せる。</p> <p>「ことば」「なかま」「ちょうせん」などテーマを決めて、読解力向上支援員がブックトークを行う。紹介された本の中から自分が興味を持った本を選び、選んだ理由について発表する。</p> <p>運動会の時に「思ったこと」を、一つにつき一枚、なるべくたくさんカードに書く。一番多い「思ったこと」は何か予想を立てた後、同じ思いのカードを重ねるように床に並べていき、確かめてみる。(いろいろな行事後にも応用)</p> <p>文部省唱歌の歌詞を物語風に文章で表現する。</p> <p>日本と外国の文化の違いを比べる。(あいさつ、手招き、のこぎりなど)</p> | あ               | ・英語であいさつをしてみよう |
|   | い               | ・友だちになろう       |
|   | さ               | ・気もちのいろいろ      |
|   | つ               |                |
|   | 身               | ・くだものなまえ       |
|   | の               | ・曜日の言い方を知ろう    |
|   | 周               | ・からだをあらわすことば   |
| り   | ・どうぶつえんに行こう     |                |
| の   | ・かぞくの言いかたを知ろう   |                |
| も   | ・色やかたちであそぼう     |                |
| の   | ・数をかぞえよう        |                |
| 買   | ・やおやさんで買い物      |                |
| い   | ・時間の言いかたをしろう    |                |
| 物   |                 |                |
| 行   | ・遠足に行くよ         |                |
| 事   | ・Hello! 1年生     |                |
| 体   | ・英語でじゃんけん       |                |
| 験   | ・英会話たいそうにちょうせん  |                |
| 等   | ・たんじょうパーティーをやろう |                |
|   | ・クリスマスのはなし      |                |

小学校3年～6年

| 学習目標  |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然現象や、社会の仕組みや出来事に対する驚き、発見、疑問等を見つけ、自分なりの言葉で表現する。</li> <li>・英語の音声的な特徴に慣れ、簡単な英語を聞いたり話したりする。</li> </ul>   |  |
| 「読解の時間」活動例  | 「英語の時間」場面・題材   |
| <p>沼津の特産品を調べ、資料を収集する。その特産品がどのように優れているかをまとめ、PRのポスターを作る。</p> <p>少年・少女向け雑誌（漫画）の広告を比べ、購買を誘うための工夫や、掲載雑誌などによる広告内容の特徴を見つけて話し合う。</p> <p>教室をミニ市役所に見立て、グループごと課（部）を決め、沼津市をさらに住みよい市にするためにその課がこれから取り組んでいくことを考えて、発表方法を工夫しながらグループでプレゼンを行う。</p> <p>新聞記事やコラム欄から自分で選んだ内容を要約する。それを原稿にしてグループで1分間スピーチを行い、記事やコラムの内容がしっかり伝わったか評価し合う。</p> <p>海外旅行のガイドブックにあるその地方独特の旅行者への注意書きを読んで、どこの国（地域）なのか推理する。</p> <p>読みあげられた新聞記事の要点をメモする。グループで確認しながら文章化し、新聞記事に近いグループを競う。</p> <p>休みの日の生活を24時間の円グラフにし、名前を隠して掲示し、どのグラフが誰のものを推測する。また、自分のグラフと比較し、休日の過ごし方の違いをまとめて発表する。</p> <p>自分たちでテーマを決めて、「わたしの意見文集」を作る。</p> <p>古典落語を聞き、今の暮らしや人情などの相違を見つける。</p> <p>国による文化の違いの理由を考える。（敬語、お辞儀と握手など）</p> | <p>あ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介をしよう</li> </ul> <p>い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝、昼、夜のあいさつ</li> </ul> <p>さ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしの家族</li> </ul> <p>つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調はいかが</li> </ul> <p>身</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなスポーツ</li> </ul> <p>の</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日はどんな天気</li> </ul> <p>周</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曜日、月、季節</li> </ul> <p>り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな教科は何ですか</li> </ul> <p>の</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物園に行こう</li> </ul> <p>も</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数字で遊ぼう</li> </ul> <p>の</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の名前</li> </ul> <p>買</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンバーガーショップで買い物</li> </ul> <p>い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文房具屋さんで買い物</li> </ul> <p>物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おつりはいくらかな</li> </ul> <p>行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の遊びと外国の遊び</li> </ul> <p>事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTの先生の国を知ろう</li> <li>・日本のお正月と外国のお正月</li> </ul> <p>体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みの思い出をカードにしよう</li> </ul> <p>験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューをしよう</li> </ul> <p>等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストを招いてランチをつくらう</li> <li>・ハロウィンって何？</li> <li>・クリスマスを楽しもう</li> <li>・じまん話大会</li> </ul> |

中学校 1 年～ 3 年

| 学習目標   |  |  |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・現実的、社会的な状況の変化に対応しながら、言葉を介して人間関係を築いたり、社会と積極的に結び付きをもったりする。</li> <li>・どのようなことを考え、どのような根拠で結論を導き出したかを具体的、論理的に説明する。</li> <li>・自分の意見や考えを、英語で話したり書いたりする。</li> </ul>  |  |  |
| 「読解の時間」活動例   | 「英語の時間」場面設定  |  |
| <p>パソコン室で「ニートの深刻さ」をテーマにインターネットで関連するHPなどを調べ、制限時間内にレポートを作成する。伝わりやすさや事例の的確性などについて、グループで評価し合う。(学校図書館で「地球温暖化の深刻さ」をテーマにした書籍からの資料収集などにも応用)</p> <p>複数の携帯電話会社の料金表を比べ、使い方によって料金がどうなるかを考え、具体的な家族の使用例を想定して説明する。</p> <p>市役所のHPから地区別人口の推移を調べ、地区ごとの人口増減の理由を推測する。</p> <p>テレビのドキュメンタリー番組を見て、制作者が工夫して編集していることを見つける。また、番組が触れていなかったことで、大事なことはないか話し合う。</p> <p>古今東西の肖像画を鑑賞し、描かれた服装や背景から、その時代・地域の価値観や時代背景などについて自分が想像したことを箇条書きにする。</p> <p>新聞の投書欄の相反する意見を読み、どちらに自分の意見が近いかを考え、相手を納得させるための意見文を書く。それをもとにグループ内で意見交換会を行う。</p> <p>若山牧水短歌のカルタ大会を行う。</p> <p>「スイミー」の原書と日本語訳本を比べ、翻訳者の日本語訳への工夫を見つける。</p> <p>井上靖の小説の英語訳本を日本語に訳し、もとの小説と比べてみる。</p> <p>日本と外国の文化の違いにある地域差を考える。(宗教、対人関係の考え方など)</p> | あ  | ・ようこそ ALT  |
|  | い  | ・自己紹介をしよう  |
|  | さ  | ・私の部活自慢  |
|  | つ  | ・将来の夢  |
|  |  | ・世界のあいさつ   |
|  | 身の周りのもの  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・病気になったら</li> <li>・数字の計算を英語で言おう</li> <li>・教室にある物の英語</li> <li>・校内にある部屋、物</li> <li>・わが家の昨晚の食事紹介</li> <li>・街角には……</li> <li>・沼津の名所、名産品</li> </ul> |
| 買い物  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街に出かけよう</li> <li>・お気に入りの服を買うには</li> </ul>  |  |
| 行事   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭に ALT を招待しよう</li> <li>・修学旅行で外国の人と話をしてみよう</li> </ul>                                     |  |
| 体験等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファーストフード店で職場体験</li> <li>・友達を誕生パーティーに招待</li> <li>・海外旅行に行くなら</li> <li>・サッカーを見に行こう</li> </ul> |  |